

2025年12月1日
聖心女子学院初等科
校長 藤原 恵美
12月号

クリスマスを待つ

宗教科主任 佐藤 潔人

今年もクリスマスを迎える時が近づいてきました。カトリック教会では、11月30日から「待降節」というキリストの降誕祭を迎える準備をして過ごします。

イエスの誕生を知らせる聖書の物語は、光の物語です。

イエスの誕生の場面では、羊のために寝むの番をしている羊飼いたちが、光に照らされて、幼子イエスが生まれる場所に導かれます。東方の三人の博士たちも、星が先立って進み、幼子へと導かれます。星が照らす場所で幼子イエスを見つけ、喜びに満たされます。マリアもヨゼフもこの光に包まれています。

教会では、この光景をイメージして馬小屋を飾ることを大切にしています。光に導かれてイエスに出会い、それぞれに光に照らされて、人々はまた新しい道を歩み始めます。

今年のプラクティスは、「私らしく、あなたらしく、みんなのために一神様からの光を感じてー」となりました。6年生が考えたプラクティスです。6年生全員がそれぞれに初等科生の今ある姿をふりかえり、案を出してくれました。

クリスマスを迎えるこの時期、子どもたちは、このプラクティスの言葉にあるように、あらためて神さまからの光、自分をこえる存在からの導きや恵みを意識して過ごします。クリスマスの物語と共に、私らしさとは何か、同じようにその人らしさとは何か、日々の行いを通じてふりかえります。そして、他の人のために物惜しみなく行動できているか考えます。みんなのための行いを通して、私らしさを見つめ直します。

イエスの誕生を知らせる聖書の物語は、また、旅の物語です。

マリアもヨゼフも、旅の途中でイエスの誕生を迎えます。羊飼いたちや博士たちも、旅を通してイエスに出会い、それぞれに担っているもの 一旅の荷ー を下ろして、担っているものの中から、かけがえのないものを見出し、それぞれの場へ旅をして、戻っていきます。

一年間、私たちも様々な荷を持ち合いながら生活してきました。クリスマスを迎える、一年間をふりかえるにあたって、荷を軽くし、また荷を変え、そして残りの荷を使い、生活の中心になっていることを見つめ直し、新たにていきたいものです。この思いが、子どもたちのプラクティスの歩みを支えていくものになればと思います。

イエスの光に思いを寄せる人に、イエスの旅のメッセージが届きますように。

今日ダビデの町に、あなたがたのために
救い主がお生まれになった。
この方こそ主メシアである。

ルカによる福音書 2・11



原田 陽子 作
(版画家)

今年のクリスマス・ウィッキングのテーマ *Finding Our Light*

ゆりの行列 クリスマス・ウィッキングのプラクティス
「私らしく、あなたらしく、みんなのために
～神様からの光を感じて～」

これからを生きる子どもたちへ キャンパスグランドデザイン委員会 大石葉月

2023年度より5年生が4クラスとなり、今年度は7年生までが少人数クラスになりました。中高等科教員と一致して実感しているのは、少人数であるからこそ、一人ひとりの様子をより的確に把握できるということです。各々の学習状況を丁寧に見取ることで思考力の育成につながり、互いに学びを深め合う授業へと発展させやすくなります。

これまでキャンパスグランドデザイン委員会では、子どもたちが主体的に学び、生き生きと学校生活を送るための「環境づくり」について検討を重ねて参りました。これから工事が始まりますが、環境づくりとは教室の増設や改修だけを意味するものではありません。

たとえば、生徒ラウンジのデザインについては、設計会社と議論を重ねながら企画を進めてきた生徒たちがいます。先日、中高の放送でラウンジの名称を募集していましたが、どのような名前が選ばれるのか、今から非常に楽しみです。今後も、子どもたちが学校外の方々と関わったり、自らアイディアを出し合ったりできる機会を積極的につくり、その経験を重ねていきたいと考えています。

さらに、教科書の枠を越えた学びへの挑戦もすでに始まっています。理科では養蜂活動が本格化し、それに関連する水耕栽培の取り組みも進められています。国語では、一昨年から5、6年生の投書が各新聞社

で次々に掲載されています。これは現12年生（当時10年生）の書いた記事を読ませたことから始まったもので、一貫校ならではの広がりと言えるでしょう。ステージや教科ごとの取り組みはもとより、その枠組みを超える交流や学びがこれまで以上に活発に行われることを目指しております。

さて、第1段として本館の改修工事が開始されます。初代本館は、ヤン・レツル氏の設計による赤レンガの建物でしたが、関東大震災で崩壊。帝国ホテルの建築などで知られるアントニン・レイモンド氏による2代目は、第二次世界大戦の戦禍により焼失しました。現在の本館は1956年に完成し、約70年にわたり聖心の歴史とともに数々の物語を紡いできた3代目の建物です。卒業生の皆様にとって、心に刻まれた思い出の場所であることでしょう。

今回の改修では、安全性を確保しつつ、ヨーロッパのように長く親しまれてきた景観を大切に残す形をとります。建物内には、生徒たちの憩いの場となるラウンジ、豊かな学びを生み出す理科・芸術ゾーンなどを新設します。事務室も本館に移設される予定です。また、これまで修道院でシスター方が毎日祈りを捧げていた聖堂はそのまま残し、近くに宗教室を設けます。今後は宗教の授業もこちらで行われる機会が増えることでしょう。

伝統を受け継ぎながら新たな聖心のキャンパスグランドデザインを築いていくために、皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

12月の行事予定

| | | | |
|--------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 1日(月) | ハイチデー | 15日(月) | PM 大掃除 |
| 3日(水) | 作文発表会 (2限1~3年、4限3~6年) | 16日(火) | 午前授業 |
| 5日(金) | 1st ゆりの行列 | 17日(水) | クリスマスウィッキング 信者静修会(PM) |
| 9日(火) | 2nd ゆりの行列 | 24日(水) | クリスマスミサ |
| 11日(木) | 面談日①・午前授業 | | ※詳細は後日 BLEND で お知らせします。 |
| 12日(金) | 面談日②・午前授業 | | ※1月9日(金) 授業開始 |

*喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます

中塩百合副校長、大石葉月教諭、新床健太教諭、新井瑞希教諭



初代の本館



理科ラウンジ イメージ